

平成 30 年 11 月 15 日

(2018 年)

保護者の皆さまへ

吹田市立青山台中学校

校 長 田 中 実

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学と理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

◎国語A（『知識』に関する問題）

生徒の平均正答率がすべての観点において全国平均値を大きく上回っていることから、出題された学習内容を十分に理解していると考えられる結果であった。

◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

生徒の平均正答率は、すべての観点において全国平均を上回っている。しかし、「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の記述式の設問においては、無回答が目立つ。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ・国語への関心・意欲・態度について、すべての設問において全国平均を上回っており、成果につながっていると思われるが、無回答が目立つ。
- ・話すこと・聞くことにおいては、すべての設問において全国平均を上回った。しかし記述式の「質問をする」「説明をする」の分野で正答率がやや低く、「言語に関する分野」で無回答が目立つので、今後力を伸ばせるように取り組む。
- ・書くことにおいてもすべての設問において、全国平均を上回っている。しかし「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」という記述式の設問に対する無回答率がやや高く、正答率は低くなっている。
- ・書く活動をふやし、自信をもたせるようにする。
- ・読むことにおいては全国平均を上回っている。ただ「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」という記述式の設問において、条件を読み解く力がやや弱いことが課題である。全体的に基本的な読解力についてはあるので、長文に対しての読解力も伸ばせるようにする。
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項においてはほとんどの設問における正答率が全国平均より高く、言語事項の定着ができています。
- ・漢字に関する知識が低いので、小テストなどで反復演習を行う。

●数学《概要》

◎数学A（『知識』に関する問題）

生徒の平均正答率は、全国平均をほとんどの項目において上回っており、学習内容が定着できていると思われる。しかし中には「数量や図形などについての知識・理解」をみる問題において、「証明」「一次関数」「確率」の意味の理解が不十分で正解を導き出せない割合が高かったり、不等式で表す問題において「〇〇以上」の部分を見落としていたりするなどがみられた。

また、無解答率においては非常に低く、意欲的に問題・学習に取り組んでいこうという姿勢がうかがえる。

◎数学B（『活用』に関する問題）

A 問題同様、ほとんどの項目において、平均正答率が全国平均を上回る結果であるが、上記の数学 A のところにもあるように、数学的な言葉の意味の理解が弱いので、文章から読み取ったことを式にすることや、なぜそうなるかの証明を記述する問題に関しては正答率が低い。

無解答率については数学 A と同様に低く、意欲的に問題に取り組んでいこうという姿勢がうかがえる。

●数学《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ・数学への関心、意欲は非常に高く、より高度な内容を要求する姿勢が伺える。更に、数学的なものの見方や考え方を鍛えるため、いろいろな課題に取り組んでいきたい。
- ・数と式の領域では、基本的な計算問題はしっかりと定着していることがうかがえるが、図形と関連した問題や文章から文字を使って数式化し、解く力に関して、類似問題を多くこなすことが必要である。
- ・「知識・理解」において数学的な語句の意味の理解が弱いので、言葉の持つ意味や根拠を再度確認していくことで、基礎基本を徹底させていく。この理解が深まれば「証明」することや「証明されたこと」から読み取る問題等でも対応できるようになると思われる。

全ての領域において、基本的な力はほぼ定着している。応用的な力もある程度備わっており、興味・関心の度合いも高い。今後、一層数学に興味を持てるように、努力していきたい。

●理科 《概要》

◎ほとんどの分野で全国平均の正答率を上回っている。記述式の問題に対しても、大きく平均正答率を上回っているものが多い。このことからどの領域において内容も偏りなく理解できていることがうかがえる。

●理科 《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

物理的領域（第1分野）

- ・概ねよく理解できているが、「オームの法則」の応用問題になると無回答率があがっていた。

化学的領域（第1分野）

- ・記述式の分子モデルを使った問題で正答率は全国平均よりも高かったが同時に無回答率も上がっていることから、生徒の理解力における二極化が起きていることが考えられる。唯一、全国・大阪府の平均正答率を下回った「質量パーセント濃度」の問題であった。1年生での学習領域になるので、今後の復習で力をつけさせていきたい。

生物的領域（第2分野）

- ・今回の「動物・植物」に関する問題等、生徒たちが興味を持ちやすい領域なので正答率が高かったが、「活用」「思考」を問う問題に関しては無回答率も高かった。

地学的領域（第2分野）

- ・今回の「天気・地震」に関する「活用」「思考」の問題では、正答率が非常に高かった。

「活用」に関する問題、科学的な思考表現をみる問題に関しては、全国平均と比較して正答率と無回答率がともに高い結果となっていることから、理解ができていない生徒に対してより深められるような内容に、今後の授業の組み立てをしていきたい。

2 生活習慣や学習、学校生活及び自分自身のこと等に関する質問紙調査の傾向

【生活習慣や学習について】

- ・「朝食を毎日食べている」生徒の割合は高く、多くの家庭で、朝食をとり登校する生活習慣が定着している。
- ・「放課後に何をして過ごすことが多いですか」の質問で高い率での回答上位が①部活動 ②テレビ・DVD・ゲーム ③塾などで勉強となっている。また、「週末に何をして過ごすことが多いですか」の質問の上位は①テレビ・DVD・ゲーム ②部活動 ③家族を過ごす・友達と過ごすとなっている。週末の余暇の時間がゲーム傾向にある結果となっている。「ノークラブデー」の浸透で生まれた時間の使い方が、自己の向上や見聞を広める様な時間に使えていないので、こういったことも伝えていきたい。

【学校生活や自分自身について】

- ・「自分には良いところがありますか」の質問に「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の割合が全国平均を上回る結果でした。また、「いじめ」に関する質問では「いけないことである」と回答した割合も平均を上回っていた。自己肯定感の高さと善悪の正しい判断力がうかがえます。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の割合は全国平均を下回っていた。今後の学校生活の中での関わりで、現在の自分だけでなく、将来の自分の姿を見据えることができる意識を持たせていきたい。
- ・「あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」「学校の規則を守っていますか」では全国平均を上回っている。落ち着いた学校環境の中で先生との関係性が良好である様子がうかがえる。

3 今後の取り組み

本校の学校教育目標「豊かな人間性を育む」「主体的に学習する態度と自主性を養う」「たくましく生きるための力を育む」を達成すべく、今回の調査結果をしっかりと分析し、今後の教育活動に活かしていきます。

教科に関する結果と、「わかるようになりたい」という生徒の学習に対する意欲を踏まえ、具体的な取り組みとしては、個々の授業において「何ができるようになるか」を明示し、習熟度別少人数授業やティームティーチングなど、一人ひとりに応じたきめ細かな指導。「数学」「理科」の質問紙にもあったように、「社会に出た時に役立つと思いますか」「普段の生活で活用できないか考えますか」の回答は全国平均よりも低い結果であったことから、授業の中で身近なことに置き換えて展開することで必要性を見い出させる工夫をするなど、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めていく。

また、ご家庭におかれましても、今後ともご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。